

Y30a 『DVD「太陽のなぞに迫る」上映キャンペーン』の実施と結果

殿岡英顕（国立天文台）、江越航（大阪市立科学館）、上玉利剛（かわべ天文公園）、鷹宏道（平塚市博物館）、齊藤和幸（日原天文台）、下井倉ともみ（東京学芸大学）、下条圭美（国立天文台）、鈴木大輔（川口市立科学館）、竹内幹蔵（島根県立三瓶自然館サヒメル）、中道晶香（京都産業大学）、本間隆幸（府中市郷土の森博物館）、時政典孝（西はりま天文台公園）、矢治健太郎（立教大学）

PAONET ひのでデータ活用ワーキンググループ（以下 PAO ひので）と国立天文台ひので科学プロジェクトは、2009年5月に共同で発行したDVD「太陽のなぞに迫る」に収録のビデオ作品が日本全国の科学教育の場で上映されることをサポートするために、「DVD「太陽のなぞに迫る」上映キャンペーン」（DVD上映キャンペーン）を行なった。これはすでに開始していた「母なる星・太陽を知ろう」キャンペーンの一環として、期間は2009年6月より9月23日まで行なわれた。このDVD上映キャンペーンでは、PAO ひのでが科学教育施設・学校・ボランティア団体などに対して呼びかけを行ないキャンペーンに参加する施設・団体を募集し、それらのリストをウェブに公開することで、興味のある一般の方へDVD収録ビデオ作品上映の情報を提供した。また、ひので科学プロジェクトではキャンペーンを支援するため、リーフレット及びひのでペーパークラフトを最大それぞれ300部まで参加施設に提供した。キャンペーン参加の条件としては、DVD収録の4種類のビデオ作品のうち1種類でも上映してもらえればよく、また期間もこの期間中であれば1日のイベントでも上映してもらえれば参加できることとした。

7月にある日食により太陽への関心が大きかったこともあり、参加施設・団体数は37になった。上映するビデオ作品は「日食の姿」が単独でトップになると予測したが、「4種類すべてを上映する」が大半の28を占めた。

本発表ではこれらの詳細に加えて、キャンペーン終了後に参加施設・団体に対して行なったアンケートの結果を報告する。